

北池 2016-2017



2017年8月

衣笠 誠一郎

目 次

1. はじめに	3
2. 北池.....	4
2.1. 水位変化.....	5
2.2. 水質.....	5
3. 野鳥の種類.....	7
3.1. ペリカン目サギ科	7
3.2. カイツブリ目カイツブリ科.....	7
3.3. カツオドリ目ウ科	7
3.4. ツル目クイナ科.....	7
3.5. チドリ目カモメ科	7
3.6. カモ目カモ科	8
4. 各月の野鳥.....	9
4.1. 2016年8月	9
4.2. 2016年9月	11
4.3. 2016年10月	12
4.4. 2016年11月	14
4.5. 2016年12月	16
4.6. 2017年1月	19
4.7. 2017年2月	23
4.8. 2017年3月	25
4.9. 2017年4月	26
4.10. 2017年5月.....	29
4.11. 2017年6月.....	31
4.12. 2017年7月.....	34
5. カモ類と気温	37
6. ハシビロガモの数の変化	38
7. 北海道のカモ	39
8. 北池の環境保護について	41
9. おわりに	42

1. はじめに

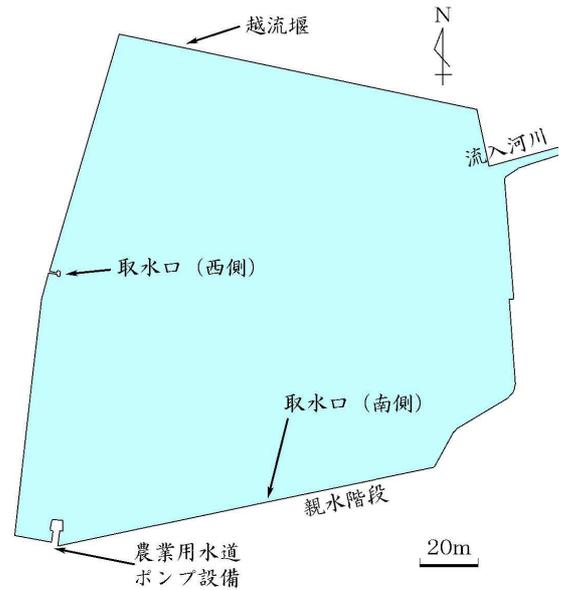
加古郡播磨町は瀬戸内海に面していて、かつては白砂清松の海岸があり、自然のなかに暮らしがあつたように記憶しています。現在は、海岸線は埋め立てられてしまい、コンクリートで固められています。町の面積は約9平方キロメートルしかないのに、山もありません。この町には自然といえるほどのものがないなと思っていたのですが、ある時住居から近い北池に野鳥がいるらしいことが分かり、興味を持ちました。

北池に行ってみるとサギがいて、大きな翼を広げて優雅に舞う姿を見ることができます。こんな立派な鳥がいるんだと、少し驚きました。冬になると、きれいな色のカモも来るらしいことが分かり、通年でバードウォッチングをすることにしました。2016年8月8日から2017年7月までの観察記録を、ここにまとめます。

観察は毎日日の出後に行いました。3週間ほどの不在の機会が2回あり、2016年9月25日～10月16日および2017年5月25日～6月14日の期間は観察を欠いています。

2. 北池

北池は兵庫県加古郡播磨町東野添に位置します。



北池は水深約 1.6m、周囲約 600mのため池です。二子水利組合により農業用水として利用されています。東側、北側、東側はコンクリート製の法覆いブロックが施され、南側には親水階段が整備されています。南西部に農業用水道のためのポンプ設備があります。堤防上には歩道が整備されていて、周囲を歩くことができます。



法覆ブロック



親水階段とポンプ設備

北池への流入河川は、北東部にある小さな川1つだけです。北西部に越流堰があり満水時、水はここより流出します。池の西側に取水口があり、南側の親水階段中央付近にも小規模な取水口があります。



流入河川 (2017.3.12)



取水口 (西側 2017.3.12)



越流堰（満水時 2017.3.12）



越流堰（水位低下時 2016.8.14）

2.1. 水位変化

北池の水位は季節により変化します。冬から初夏の田植え時期までの間、北池の水位はほぼ満水位状態を保ちます。田植えシーズンに低下しますが、梅雨期の雨水の流入により満水位に戻ることがあります。その後、夏から秋にかけて水位はすこしずつ低下し、「かがやきの北池コミュニティ」による「魚つかみどり大会」が開催される10月末には水深数十cmにまで下げられます。その後、水位はすこしずつ上昇し、年末にかけて満水位となります。2016年の場合、12月22日に満水になりました。

2.2. 水質

播磨町による、ため池の水質分析結果を表に示します。

表 北池の水質分析結果

年度	透明度	DO	BOD	COD	SS	T-N	T-P	クロロフィル	大腸菌	pH
平成13年	19	8.2	10.0	23.0	52.0	3.80	0.650	220		
平成14年										
平成15年	19	8.2	10.0	23.0	52.0	3.80	0.650	220	1.1E+03	9.3
平成16年	12	10.2	7.4	25.0	52.0	4.10	0.480	180	1.0E+01	9.7
平成17年	12	15.0	13.0	20.0	60.0	2.50	0.320	56	2.0E+00	9.4
平成18年	20	19.0	9.8	21.0	35.0	2.00	0.340	230		10.2
平成19年	12	20.0	17.0	35.0	46.0	2.00	0.250	330	2.0E+00	10.4
平成20年	21	9.2	7.2	19.0	23.0	2.80	0.220	120	3.3E+02	9.6
平成21年	15	20.0	18.0	24.0	33.0	3.10	0.250	180	2.0E+00	10.9
平成22年	10	11.0	7.5	21.0	28.0	2.20	0.210	220	4.6E+03	9.5
平成23年	30	12.0	6.9	13.0	15.0	2.40	0.100	42	7.9E+04	9.0
平成24年	25	17.0	7.1	15.0	16.0	1.60	0.110	47	1.1E+03	9.8
平成25年	19	14.0	7.3	16.0	15.0	1.60	0.085	60	3.3E+03	9.3
平成26年	14	12.0	4.0	11.0	14.0	1.80	0.110	35	7.9E+04	9.5
平成27年	17	14.0	7.4	25.0	24.0	2.40	0.089	88	4.9E+02	9.8

溶存酸素 (DO)は、水中に溶解している酸素をいう。空気中の酸素により供給される。溶解量は温度や圧力に左右されるが、清浄な水には7(30℃)～14(0℃)mg/リットル程度

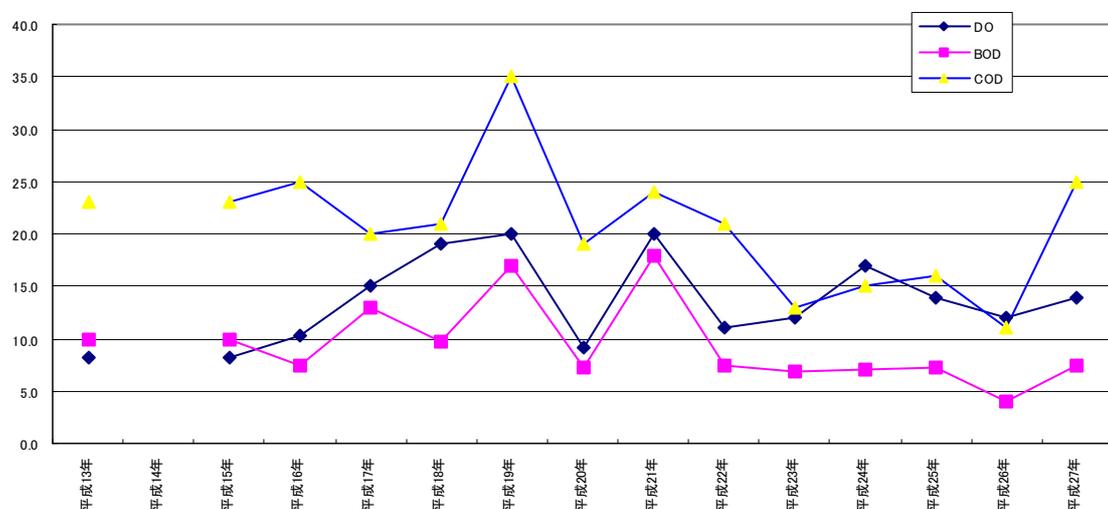
が溶解している。公共水域の汚濁限界は 5 mg/L とされている。

生物化学的酸素要求量 (BOD)は、溶存酸素の存在する状態で一定条件のもとに、水中の微生物の増殖あるいは呼吸作用により消費される酸素量をいう。汚濁度の指標としては 20℃で 5 日間に消費する酸素量を標準とする。

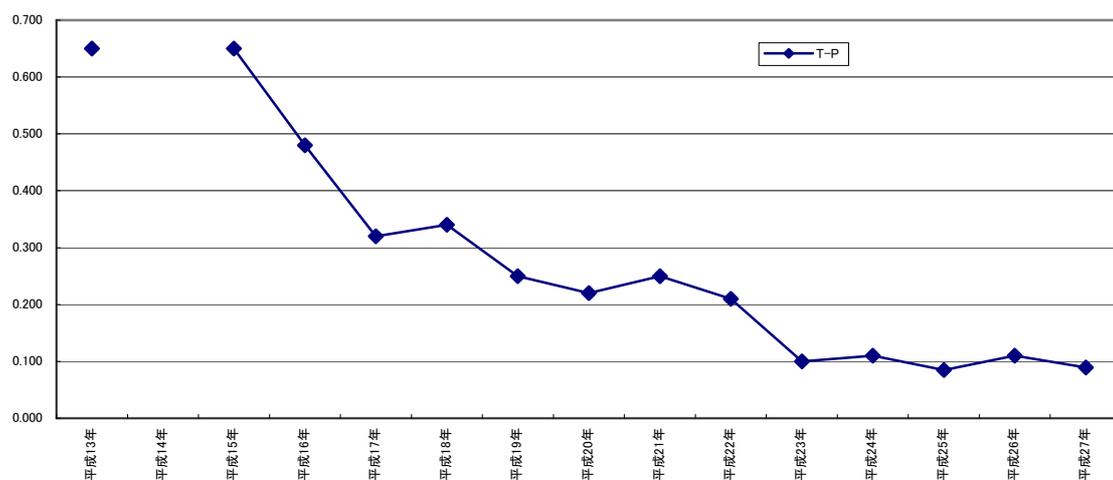
化学的酸素要求量 (COD) は、水中の有機物を酸化して、使われる酸化剤の消費量で有機物の量を推定する。酸化剤として過マンガン酸カリウムや重クロム酸カリウムが使われる。きれいな水の COD は 1~3ppm、汚れた水の COD は 10ppm 程度である。

総リン (T-P) は、燐灰石のような燐酸塩として算出する。排水中のリン化合物は有機態リン、無機態リンの二形態に大別される。

溶存酸素(DO)、生物化学的酸素要求量 (BOD)、化学的酸素要求量 (COD)の値の変化をグラフに示します。



総リン (T-P) の値の変化をグラフに示します。



グラフより、溶存酸素 (DO)は生物化学的酸素要求量 (BOD)は、化学的酸素要求量 (COD) には特に変化はみられないが、総リン (T-P)の値は低下しており、水質が一部改善していると、言って良いかもしれません。

3. 野鳥の種類

2016年8月～2017年7月の間に、北池で見られた野鳥（主に水鳥）は次のとおりです。

3.1. ペリカン目サギ科

- **ダイサギ** 白い大型のサギで、首と足が長い。
- **コサギ** 白い小型のサギ。くちばしは一年を通して黒い。足の指は黄色。
- **アオサギ** 背中が灰色の大型のサギで、首と足が長い。
- **ササゴイ** ハトよりも少し大きく、くちばしが長い。
- **ゴイサギ** ササゴイよりも大きく、上面が黒い(写真なし)。



ダイサギ



コサギ



アオサギ



ササゴイ

3.2. カイツブリ目カイツブリ科

- **カイツブリ** ムクドリ大でくちばしがとがっている。ヨシの林のなかに巣をつくり繁殖する。北池では、9月中旬から11月初旬を除いて、よく見られた。



カイツブリ

3.3. カツオドリ目ウ科

- **カワウ** 関東、東海、近畿地方で多く見られる。北池では年間を通して見られるが、見られない日もあった。



カワウ

3.4. ツル目クイナ科

- **バン** ハト大で額が赤く、くちばしの先端部が黄色い。首を前後に動かしながら泳ぐ。北池では、6月中旬から7月初旬にかけて見られた。
- **オオバン** 全身が黒く、くちばしが白い。首を前後に動かしながら泳ぐ。北池では、12月中旬から4月中旬にかけて見られた。

3.5. チドリ目カモメ科

- **コアジサシ** ムクドリ大で翼や尾が長くスマート。全身が白く、後頭部に黒い模様がある。北池では、9月と6月にそれぞれ1日ずつ見られた。



コアジサシ



オオバン



バン

3.6. カモ目カモ科

- **カルガモ** くちばしの先が黄色。カモ類のなかで比較的大型で、腰の両側に白い三日月模様がある。北池では一年を通して見られた。
- **ハシビロガモ** カルガモよりやや小さく、長めで横幅が広いくちばしが特徴。♂の胸は白く、腹は赤茶色。頭部は光の加減で緑色～紺色に見える。シベリア～ヨーロッパおよび北アメリカで繁殖し、日本各地で越冬する。北池では、10月下旬から4月上旬にかけて見られた。
- **キンクロハジロ** シベリア～ヨーロッパで繁殖し、日本には冬鳥として全国各地に飛来し越冬する。♂は白黒のツートンカラー。♀は腹が茶色。くちばしは♂♀ともに黒色。潜水して水草や昆虫類などの餌をとる。北池では、12月中旬から4月上旬にかけて見られた。
- **ミコアイサ** シベリア～ヨーロッパで繁殖し、日本には冬鳥として全国各地に飛来し越冬する。♂は全体に白で、パンダガモとも呼ばれる。右の写真は♀。潜水して魚類や昆虫類などの餌をとる。北池では、1月上旬から2月下旬にかけて見られた。
- **ヒドリガモ** シベリア～ヨーロッパで繁殖し、日本には冬鳥として全国各地に飛来し越冬する。額がオレンジ色で東部が赤い。くちばしは灰色で先端は灰色。北池では、11月上旬から3月下旬にかけて見られた。
- **オカヨシガモ** シベリア～ヨーロッパで繁殖し、日本には冬鳥として全国各地に飛来し越冬する。北池では、1月に1日、3月1日、計2日だけ見られた。
- **コガモ** シベリア～ヨーロッパで繁殖し、日本には冬鳥として全国各地に飛来し越冬する。北池では、1月に2日と、4月上旬から5月上旬にかけて見られた。
- **マガモ** カルガモとほぼ同じ大きさの大型のカモ。シベリア～ヨーロッパで繁殖し、日本には冬鳥として全国各地に飛来し越冬する。北池では、11月と12月にそれぞれ1日ずつ、3月下旬から4月初旬にかけて4日見られた。



カルガモ



ハシビロガモ



キンクロハジロ



ミコアイサ



ヒドリガモ



オカヨシガモ



コガモ



マガモ

4. 各月の野鳥

4.1. 2016年8月

観察開始は8月8日で、この月の観察日数は20日間。今月見られた水辺の野鳥は5種類。一度に見られる鳥の数は、多くても10数羽ほど。以下、鳥の名前、今月見られた日数、観察状況について記します。

- **アオサギ** 13日 毎日連続して見られたが、たまに見られない日がある。月末に4日連続で見られなかった。
- **ダイサギ** 11日 見られたり、見られなかったり、連続して見られることもある。
- **コサギ** 9日 2日続けて見られることもあるが、見られたり、みられなかったり。
- **カイツブリ** 3日 17日を最後に月末まで見られなかった。
- **カルガモ** 2日 5~6羽の小さな群れが見られた。

アオサギ、ダイサギ、コサギなどサギ類はよく見られた。カイツブリの中には、ヒナも見られた。カワウは見られなかった。北池には40~60cmの大きさの鯉がたくさんおり、また小魚の群れを見ることもできる。



鯉 (2016.8.9)



水面に群れている小魚 (2016.8.9)

ダイサギやコサギなど白い鷺がアオサギとともに、浅瀬にたたずんでいたりと、水面の上を舞っていたり。



コサギの群れ (2016.8.30)



朝日にむかうアオサギとダイサギ (2016.8.24)

ダイサギが空中から水面にダイブして、小魚を捕らえる瞬間を撮影することができた。



ダイサギが小魚を捕らえた (2016.8.28)

今月カルガモが見られたのは2日だけで、6羽ほどの小さな群れが見られた。カイツブリは3日見られただけで、頭に白い筋が見えるヒナが含まれていた。カイツブリはヨシの中に、水に浮かぶように巣を作るようで、カイツブリが見えない日は、ヨシの林の中に隠れているのかもしれない。



カイツブリのヒナ (2016.8.12)



カルガモの小さな群れ (2016.8.20)

4.2. 2016年9月

9月の観察日数は、1日から24日までの22日。見られた水辺の野鳥は7種類。8月と同じ種類に、カワウとコアジサシが増えた。

- アオサギ 1日 見られたのは1日だけ。
- ダイサギ 2日 見られたのは2日だけ。
- コサギ 10日 月初めは連続して見られたが、その後は見られたり、みられなかったり。
- カイツブリ 1日 見られたのは月初めの1日だけ。
- カワウ 1日 見られたのは23日の1日だけ。
- カルガモ 2日 4羽ほどの小さな群れ。
- コアジサシ 1日 見られたのは1日だけ。水面に急降下して小魚を狙っていた。

水面から飛び立つとき、カワウとカイツブリは水面を足でけるように助走をつけて空中へ飛び上がります。



水面から飛び立つカワウ (2016.9.11)



水面から飛び立つカイツブリ (2016.9.2)

カルガモは4羽ほどの小さな群れで、近くの池の間を移動しているよう。コアジサシが1日だけ見られたが、背中の羽の付け根に幼鳥時の茶色い模様が残っています。



カルガモの群れ (2016.9.18)



羽に幼鳥時の模様が残るコアジサシ (2016.9.23)

4.3. 2016年10月

10月の観察日数は、17日～31日までの間の11日。見られた水辺の野鳥は、6種類。ハシビロガモがこの秋初めて見られた。冬鳥のカモ類は、この秋初めて見られたハシビロガモ1種類。今月カイツブリは見られなかった。

- アオサギ 9日 ほぼ毎日見られた。
- ダイサギ 10日 ほぼ毎日見られた。8羽ほどの群れの日がある。
- コサギ 9日 ほぼ毎日見られた。5羽ほどの群れの日がある。
- カワウ 6日 見られない日もあるが、20羽ほどの群れの日がある。
- カルガモ 4日 見られない日が多いが、9羽ほどの群れの日がある。
- ハシビロガモ 1日 10月25日に2羽が今シーズン初めて見られた。

10月22日に「魚つかみどり大会」が開催され、その準備として北池の水面は低下させられている。サギ類などは広い範囲を歩きまわられるようになった。



カルガモとダイサギ (2016.10.20)



カルガモの群れ (2016.10.21)

カワウは20羽を超える群れで見られた。



カワウの群れ (2016.10.29)



空を舞うカワウの群れ (2016.10.30)

8羽の群れでダイサギが見られた日がある。カルガモにまじり、ハシビロガモの雌雄2羽が見られた。ユーラシア大陸から南下してきたカモ類の今シーズン最初です。



ダイサギの群れ (2016.10.31)



ハシビロガモとカルガモ (2016.10.25)

池の水位が低下し、北池の大部分を歩くことができるようになったため、ダイサギは餌の小魚を採りやすいようだ。黄金いろの朝日の中を、ダイサギが池の中ほどに降り立つ。



小魚を採るダイサギ (2016.10.24)



朝日の中のダイサギ (2016.10.31)

4.4. 2016年11月

11月の観察日数は、27日。見られた水辺の野鳥は9種類。10月のハシビロガモに続き、ヒドリガモとマガモが見られた。冬鳥のカモ類は、ハシビロガモ、ヒドリガモ、マガモの3種類。

- **アオサギ** 15日 11月2日から13日まで毎日見られた。その後は見られない日が多い。11月25日には3羽見られた。
- **ダイサギ** 11月1日から10日まで毎日見られた。その後は時々見られ、18日以降は見られなかった。
- **コサギ** 5日 11月1日に30羽ほどの大きな群れで見られたが、その後見られた日は少ない。
- **カイツブリ** 3日 見られる日が少なく、1羽のみ。
- **カワウ** 6日 11月5日から8日まで続けて10羽以上の群れで見られた。18日と20日に見られただけで、それ以外の日には見られなかった。
- **カルガモ** 8日 多い日は7羽ほどの群れで見られたが、見られない日が多い。
- **ハシビロガモ** 2日 11月18日に2羽、21日に7羽見られた。
- **ヒドリガモ** 1日 11月18日に1羽見られた。
- **マガモ** 1日 11月7日に3羽見られた。

10月22日以降、徐々に水位が上昇している。アオサギとダイサギは、11月14日までほぼ毎日見られたが、その後は見られない日が多くなった。池の水位が上昇し、池の中を歩いて餌を探すことが難しくなったためかもしれない。



ダイサギ (2016.11.2)



カワウの助走 (2016.11.20)



アオサギ (2016.11.4)



アオサギ (2016.11.5)



ダイサギ (2016.11.1)



アオサギとカワウ(2016.11.2)



コサギ (2016.11.4)



カルガモ (2016.11.2)



マガモ (2016.11.7)



ハシビロガモ (2016.11.18)



ヒドリガモ (2016.11.4)

4.5. 2016年12月

12月の観察日数は29日。見られた水辺の野鳥は9種類。キンクロハジロとオオバンが今シーズン初めて見られた。今月見られた冬鳥は、ハシビロガモ、キンクロハジロ、オオバンの3種類。先月に続いて、水位は少しずつ上昇し、12月22日に満水位となった。

- **アオサギ** 17日 12月4日から25日まで、ほぼ毎日1羽が見られた。
- **ダイサギ** 10日 12月4日から19日まで、ほぼ毎日1~2羽が見られた。
- **コサギ** 17日 12月1日から30日まで、2~6日見られない日が続くことがあるが、ほぼ毎日のように見られた。
- **カイツブリ** 4日 見られない日が多く、たまに1~2羽見られた。
- **カワウ** 11日 1~2日おきくらいに時々見られた。
- **カルガモ** 17日 見られない日もあるが、2~20羽以上の群れが見られる日が続くこともあった。
- **ハシビロガモ** 17日 12月8日以降は時々見られ、18日以降は続けて見られた。20羽を超える日もあった。
- **キンクロハジロ** 4日 12月14日今シーズン初めて1羽現れ、数日おきに見られた。
- **オオバン** 9日 12月17日今シーズン初めて1羽現れ、23日からは毎日見られた。



コサギ (2016.12.4)



残月とカワウの群れ (2016.12.18)



アオサギ、カルガモ、キンクロハジロ (2016.12.14)



小魚の群れ (2016.12.8)



10cmほどの魚の群れ (2016.12.8)



2羽のカルガモ (2016.12.19)



離れた後の泳ぎ (2016.12.19)



ハシビロガモ (2016.12.24)



ハシビロガモ (2016.12.29)



ハシビロガモ (2016.12.24)



オオバン (2016.12.23)



キンクロハジロ (2016.12.19)



キンクロハジロ (2016.12.23)



カルガモ (2016.12.21)



カルガモ (2016.12.17)

4.6. 2017年1月



2017年の初日の出 (2017.1.1)

今月の観察日数は30日。今月見られた水辺の野鳥は12種類、うち冬鳥はハシビロガモ、キンクロハジロ、オオバン、ミコアイサ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、コガモの7種類。ミコアイサ、オカヨシガモ、コガモは今シーズン初めて見られた。ダイサギは12月19日を最後に、今月は一度も見られなかった。

- **アオサギ** 6日 時々1羽のみ見られた。
- **コサギ** 7日 時々1羽のみ見られた。
- **カイツブリ** 29日 ほぼ毎日1~5羽見られた。
- **カワウ** 6日 1月18日までは見られず、20日以降は時々見られた。
- **カルガモ** 16日 初旬は見られない日が多かったが、その後はほぼ毎日2~12羽の群れが見られた。
- **ハシビロガモ** 30日 毎日少ない日は5羽、多くの日で10~30羽が見られた。
- **キンクロハジロ** 19日 1月14日以降はほぼ毎日1~6羽見られた。
- **オオバン** 30日 1月7日までは毎日1羽、27日までは2羽、28~31日までは3羽が見られた。
- **ミコアイサ** 15日 1月3日に今シーズン初めて現れ、間をおいて11日からは2~3日続けて見られるが、見られない日もあった。
- **ヒドリガモ** 6日 1~2羽が時々見られた。
- **オカヨシガモ** 1日 今シーズン初めてで、1日のみ見られた。
- **コガモ** 2日 1羽だけ、稀に見られる程度。

ハシビロガモの雌（左）と雄（右）。雄は白い胸と赤茶色の腹が目立つ。頭は光線の加減で緑色～紺色に見える。右の写真は、着水するハシビロガモの雌。



ハシビロガモ (2017.1.12)



着水するハシビロガモ (2017.1.10)

くちばしを羽の中に入れて、丸まった状態で休んでいることがある。右の写真はヒドリガモ。オレンジ色の額が目立つ。



ハシビロガモ (2017.1.4)



ヒドリガモ (2017.1.9)

キンクロハジロは目が黄色で、くちばしが灰色で先端は黒、黒と白のツートンカラーが特徴。水の中に潜って餌をとる。1月中旬以降、キンクロハジロは毎日10羽弱ほどの群れが見られた。



キンクロハジロ (2017.1.19)



キンクロハジロ (2017.1.21)

ミコアイサは今シーズン初めて見られた。パンダガモとよばれる雄は見られず、雌だけが見られた。雌は頭が赤く、頬が白い。ハシビロガモやヒドリガモよりも少し小型で、水面に浮いている時、身体の水中に沈んでいる割合が多い。助走をつけて水面から飛び立つ。



ミコアイサ (2017.1.11)



ミコアイサ (2017.1.13)

オカヨシガモも今シーズン初めて見られた。くちばしが黒く、胸から腹にかけて細かな模様がある。コガモも今シーズン初めてで、赤茶の頭に緑の帯、尻の横に黄色の三角模様が特徴的。



オカヨシガモ (2017.1.12)



コガモ (2017.1.15)

オオバンは毎日見られた。1月7日までは1羽だけだったが、9日から2羽に増え、28日から31日までは3羽見られた。水面から尻が出た状態で、水中の餌を取るようすが見られる。



オオバン (2017.1.17)

今月カイツブリは1~5羽、ほぼ毎日見られた。2羽のカイツブリが追いかけてっこをしているようすが見られた。



カイツブリ (2017.1.09)



カイツブリ (2017.1.12)

1月25日、北池は岸から近い部分が凍結した。日が高く上ると、氷は解けてなくなった。



親水階段前の氷 (2017.1.25)



氷とコサギ (2017.1.25)

4.7. 2017年2月

今月の観察日数は28日。今月見られた水辺の野鳥は11種類、うち冬鳥はハシビロガモ、キンクロハジロ、オオバン、ミコアイサ、ヒドリガモの5種類。ハシビロガモ、キンクロハジロ、オオバンは、毎日見られた。オカヨシガモ、コガモは今月は見られなかった。ダイサギは12月19日以来見られていないが、今月は1日だけ見られた。

- アオサギ 14日 日によって見られたり見られなかったり。
- ダイサギ 1日 1日だけ見られた。
- コサギ 13日 日によって見られたり見られなかったり。
- カイツブリ 28日 毎日1~5羽が見られた。
- カワウ 9日 日によって見られたり見られなかったり。
- カルガモ 23日 ほとんど毎日見られる。多い時は16羽の群れ。
- ハシビロガモ 28日 毎日見られた。少ない日でも10羽以上、多い日は40羽以上。
- キンクロハジロ 28日 毎日3~11羽見られた。
- オオバン 28日 毎日2羽見られた。
- ミコアイサ 3日 10日に1日程度、稀に見られる。
- ヒドリガモ 9日 中旬までは稀、2月22日以降は毎日見られた。



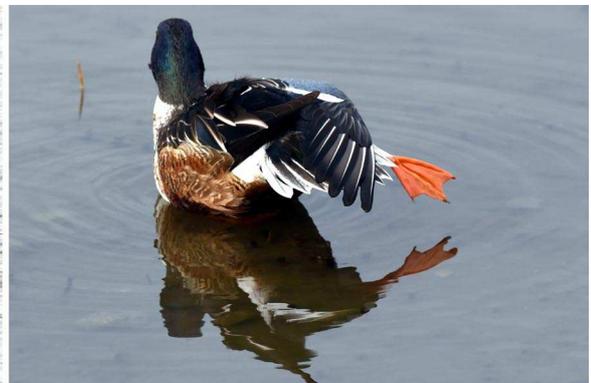
アオサギ (2017.2.11)



コサギ (2017.2.7)



カルガモ (2017.2.7)



ハシビロガモの足 (2017.2.7)



ヒドリガモ (2017.2.26)



ヒドリガモ (2017.2.25)

スイスイと水をかき分けて泳ぐミコアイサ (雌)。写真右は、キンクロハジロの群れの向こうにミコアイサ (雌)。



ミコアイサ (2017.2.1)



キンクロハジロ (2017.2.12)

繁殖中を示す頭部と腰部に白い羽が見える。梅の枝でメジロがさえずっていた。



カワウ (2017.2.17)



メジロ (2017.2.19)

4.8. 2017年3月

今月の観察日数は31日。今月見られた水辺の野鳥は12種類、うち冬鳥はハシビロガモ、キンクロハジロ、オオバン、ミコアイサ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、マガモの7種類。ハシビロガモは3月16日までは毎日見られたが、その後は21日に見られただけ。キンクロハジロは3月11日までは毎日見られたが、その後月末まで見られなかった。オオバンは毎日見られ、3月25日までは2羽、その後1羽になった。ヒドリガモは3月27日までは毎日見られた。オカヨシガモは3月21日にだけ見られた。マガモは下旬に3日だけ見られた。コガモは今月は見られなかった。ダイサギは今月は3月4日だけ見られた。

- アオサギ 18日 日によって見られたり見られなかったり。
- ダイサギ 4日 1日だけ見られた。
- コサギ 11日 日によって見られたり見られなかったり。
- カイツブリ 31日 毎日2~6羽見られた。
- カワウ 27日 ほぼ毎日1~5羽見られた。
- カルガモ 24日 見られない日もあるが、ほぼ毎日見られた。
- ハシビロガモ 17日 3月16日までは毎日見られた。
- キンクロハジロ 11日 3月11日までは毎日見られた。
- オオバン 31日 毎日見られた。
- ヒドリガモ 28日 3月27日までは毎日見られた。
- オカヨシガモ 1日 3月21日にだけ1羽見られた。
- マガモ 3日 下旬に3日だけ見られた。

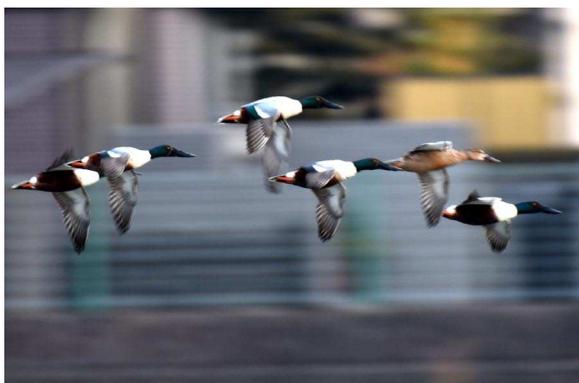
浅い場所で休むハシビロガモの群れの中のヒドリガモ（写真左）。羽を広げたヒドリガモの雌（写真右）。5~10羽のハシビロガモが、池の中を2~3周飛ぶようすが見られた。



ハシビロガモの群とヒドリガモ (2017.3.6)



ヒドリガモ (2017.3.5)



ハシビロガモ (2017.3.4)



水深棒とカイツブリ (2017.3.10)

4.9. 2017年4月

今月の観察日数は30日。今月見られた水辺の野鳥は12種類、うち冬鳥はハシビロガモ、キンクロハジロ、オオバン、コガモ、マガモの6種類。冬鳥が最後に見られたのは、ハシビロガモは4月9日、キンクロハジロは4月4日、オオバンは4月13日。マガモは4月2日、それ以後は見られない。コガモは、初旬～中旬にかけて見られたり見られなかったりだったが、4月23日から月末まで毎日見られた。ダイサギは下旬に時々見られた。

- **アオサギ** 22日 見られない日もあるが、ほぼ毎日1～5羽見られた。くちばしと足が赤くなる婚姻色が見られた。
- **ダイサギ** 6日 19日までは見られず、20日以降時々見られた。
- **コサギ** 5日 時々見られた。
- **カイツブリ** 30日 毎日2～6羽見られた。
- **カワウ** 24日 ほぼ毎日見られた。多い日は4羽。
- **カルガモ** 25日 ほぼ毎日1～7羽見られた。
- **ハシビロガモ** 2日 初旬に2度見られた。最後に見られたのは4月9日。
- **キンクロハジロ** 1日 4月4日に1度だけ見られ、最後となった。
- **オオバン** 13日 4月13日まで毎日見られ、最後となった。
- **コガモ** 14日 時々みられ、下旬に3～4羽毎日見られた。
- **マガモ** 1日 4月2日に1度だけ見られ、最後となった。

4月9日、アオサギのくちばしと足が赤くなる婚姻色が見られた。4月末～5月初めにかけて、婚姻色の赤い色はだんだん薄くなっていく。



婚姻色のアオサギ (2017.4.9)



婚姻色のアオサギ (2017.4.8)



婚姻色のアオサギ (2017.4.21)



アオサギ (2017.4.27)



ハシビロガモ (2017.4.3)



キンクロハジロ (2017.4.4)



コガモ雄 (2017.4.3)



コガモ雌 (2017.4.24)



コガモ (2017.4.24)



コガモ雄 (2017.4.4)

北池には 40~60 cm大の鯉がたくさんいるが、4月下旬、水面からジャンプしたり、重なり合って身体の半分以上が水面から上にでたり、大きな水しぶきをあげたりして、浅瀬で群れを成して騒いでいるようすが見られた。



群れで騒ぐ鯉 (2017.4.21)



群れで騒ぐ鯉 (2017.4.28)



群れで騒ぐ鯉 (2017.4.29)

北池の北東部にヨシ林があるが、10月末～11月初め頃に刈り取られる。4月に入ると、ヨシが成長を始め、10日には水面から新芽がみられるようになった。24日にはまだ背丈は低いが、林を形成するようになった。



生え始めたヨシ (2017.4.10)



成長するヨシ (2017.4.24)

4月上旬から中旬にかけて、桜が満開となった。4月末にはライラックの赤紫の花が咲いた。ライラックは札幌市の花として有名で、札幌に比べると約1か月早いようである。



桜とアオサギ (2017.4.12)



ライラック (2017.4.27)

4.10.2017年5月

今月の観察は、1日から24日まで。今月見られた水辺の野鳥は5種類、うち冬鳥はコガモだけ。コガモが最後に見られたのは5月4日。これですべての冬鳥がいなくなった。今月はダイサギ、コサギともに見られなかった。アオサギの婚姻色はほぼなくなった。

- アオサギ 10日 日によって見られたり、見られなかったり。
- カイツブリ 22日 1~3羽、ほぼ毎日見られた。
- カワウ 9日 日によって見られたり、見られなかったり。
- カルガモ 11日 日によって見られたり、見られなかったり。
- コガモ 3日 5月4日を最後に、その後は見られない。



アオサギ (2017.5.7)



カワウ (2017.5.11)

カイツブリは頭部が赤い夏の羽になっている。



カイツブリ (2017.5.8)



カイツブリ (2017.5.20)

カルガモは潜れないので、水中の餌を取るとき、身体の半分が水面からでてくる（写真左）。北池の南側にある親水階段を、両足で1段ずつ飛びあがる様子が見られた（写真右）。



カルガモ (2017.5.12)



カルガモ (2017.5.7)

コガモの雌1羽が5月4日まで見られた。繁殖地のユーラシア大陸まで行くのに、群れと合流できるのだろうか(写真左)。5月下旬になり、ヨシ林はかなり成長した(写真右)。



コガモ (2017.5.4)



ヨシ林 (2017.5.24)

4月に続いて、5月7日にも鯉の群れが騒いでいるのが見られた。



騒ぐ鯉 (2017.5.7)

4.11.2017 年 6 月

今月の観察日数は、6月15日から30日までの16日。見られた水辺の野鳥は9種類。バン、ササゴイが初めて見られた。カイツブリのヒナが5羽見られた。

- アオサギ 4日 下旬に時々見られた。
- ダイサギ 4日 下旬に時々見られた。ダイサギのくちばしが黒くなり始めている。
- コサギ 1日 6月21日だけ見られた。
- カイツブリ 16日 毎日2~9羽見られた。うち5羽はヒナ。
- カワウ 6日 時々見られた。
- カルガモ 2日 6月22、23日にだけ見られた。
- バン 6日 6月17日に初めて見られた。
- ササゴイ 3日 6月18日に初めて見られた。
- コアジサシ 1日 6月19日にだけ見られた。



ダイサギ (2017.6.24)



ダイサギ (2017.6.22)

6月24日までは5羽確認できたが、その後は数が減り、30日にはヒナは見られなくなった。カイツブリのヒナの頭部には、白い縞模様が見られる。



カイツブリ親とヒナ (2017.6.22)



カイツブリのヒナ (2017.6.23)

コアジサシは9月23日に初めて見られ、今月19日が2回目。空中から狙いを定め、水面へのダイブを繰り返していた。



カイツブリの親の背にのるヒナ (2017.6.24)



コアジサシ (2017.6.19)

バンは6月17日に初めて見られた。6月20日には2羽見られたので、巣があるのかもしれない。ヨシの林の中に隠れていることが多いので、短時間の観察では見られないことも多い。



バン (2017.6.20)



バン (2017.6.17)

ササゴイは6月18日初めて見られた。顔つきはサギと同じようであり、羽に笹のような模様が特徴的である。



ササゴイ (2017.6.19)



ササゴイ (2017.6.18)

北池の堤防にはラベンダーや各種の花々やアジサイなどが植えられており、季節を彩っている。富良野に比べて、ラベンダーの花は1か月ほど早く咲くようである。



ラベンダー (2017.6.23)



アジサイ (2017.6.28)

4.12.2017 年 7 月

今月の観察日数は、7月1日から31日までの31日。見られた水辺の野鳥は8種類。ゴイサギが初めて見られた。カイツブリのヒナが1羽も見られなかった。

- **アオサギ** 14日 1羽のみで、1週間続けて見られることもあるが、見られない日もある。
- **ダイサギ** 5日 初旬に時々見られた。1羽のみが多く、2羽の日が1日だけあった。
- **コサギ** 2日 下旬に2日だけ見られた。
- **カイツブリ** 26日 稀に見られない日もあるが、ほぼ毎日1~2羽見られた。ヒナは1羽も見られなかった。
- **カワウ** 5日 時々見られた。
- **カルガモ** 2日 7月12日に4羽、31日に2羽見られた。
- **バン** 4日 初旬に4日見られたが、その後は見られない。
- **ゴイサギ** 1日 7月5日に初めて、1度だけ見られた。

アオサギやダイサギが翼を広げた姿は、素晴らしい。



アオサギ (2017.7.8)



ダイサギ (2017.7.6)

ダイサギのクチバシが先の方から黒くなっている。バンは額が赤く、クチバシが黄色で、翼と尻尾に白い斑がある。



ダイサギ (2017.7.6)



バン (2017.7.7)



カルガモの離水 (2017.7.31)

カルガモが水面から飛び上がる時、一度羽をひろげ（写真右）、その羽で水面をたたいて（写真下左）、水面から飛び出す（写真下右）ように見える。



カルガモの離水 つづき (2017.7.31)

北池にはトンボも見られる。ウチワヤンマ、シオカラトンボ、イトトンボなど。



ウチワヤンマ (2017.7.8)



イトトンボ (2017.7.23)



アオコ (2017.7.24)



アメンボ (2017.7.16)

水面にアオコが見られることがある。アオコは風に吹かれて水面を漂う。7月24日から25日明け方にかけて南～南東の風が吹き、アオコは北西部の越流堰付近に集まっていたが、

26 日明け方に強い雨が降り、アオコは水とともに越流堰から流れ去り、その後は見られていない。

北池には体長 60 cm以上のコイが多数いるが、目から口にかけて長いものがあり、ニゴイかもしれない。26 日未明に強い雨が降ったが、日の出後コイが水面で口を大きくあけて何かを飲み込もうとしていた。



ニゴイ (2017.7.17)



コイ (2017.7.26)

キキョウは秋の七草に入っているが、花は夏に咲くようである。カワラヒワが土手の花壇に植えられたヒマワリにとまっている。翼と尻尾に黄色の斑が特徴。種を食べに来たようだ。

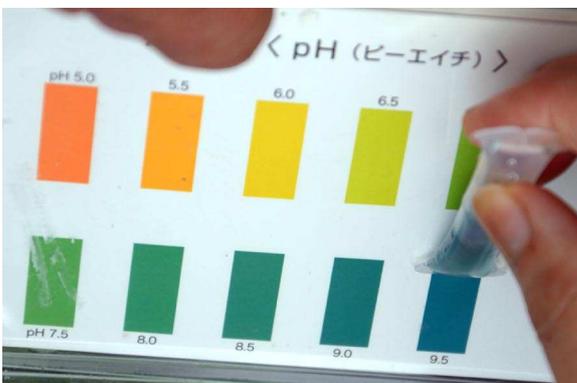


キキョウ (2017.7.4)



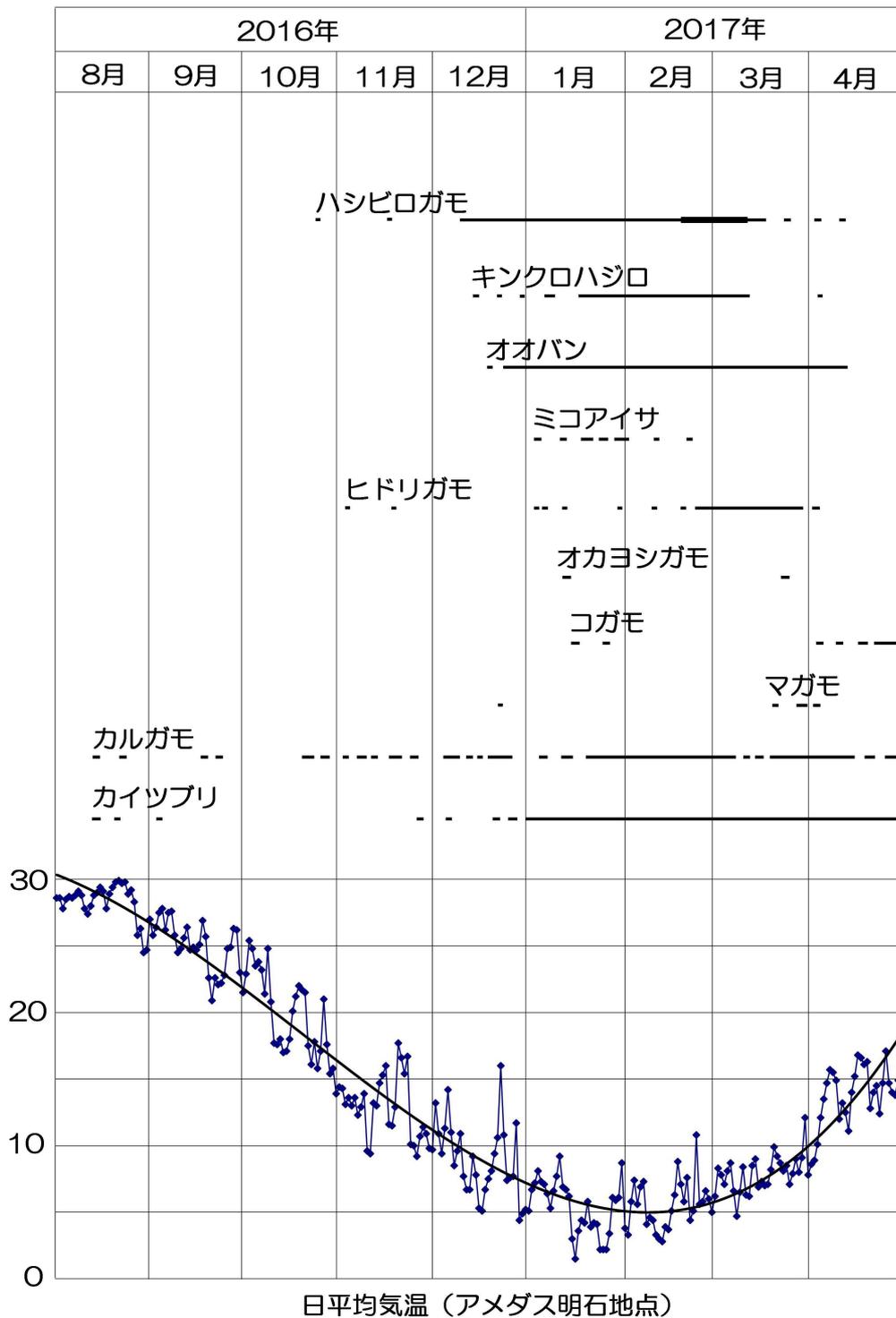
カワラヒワ (2017.7.30)

7 月 23 日、かがやきの北池コミュニティ主催による水質チェックが行われた。北池に注ぐ川の水は、pH 9.5、COD 5~10 である。



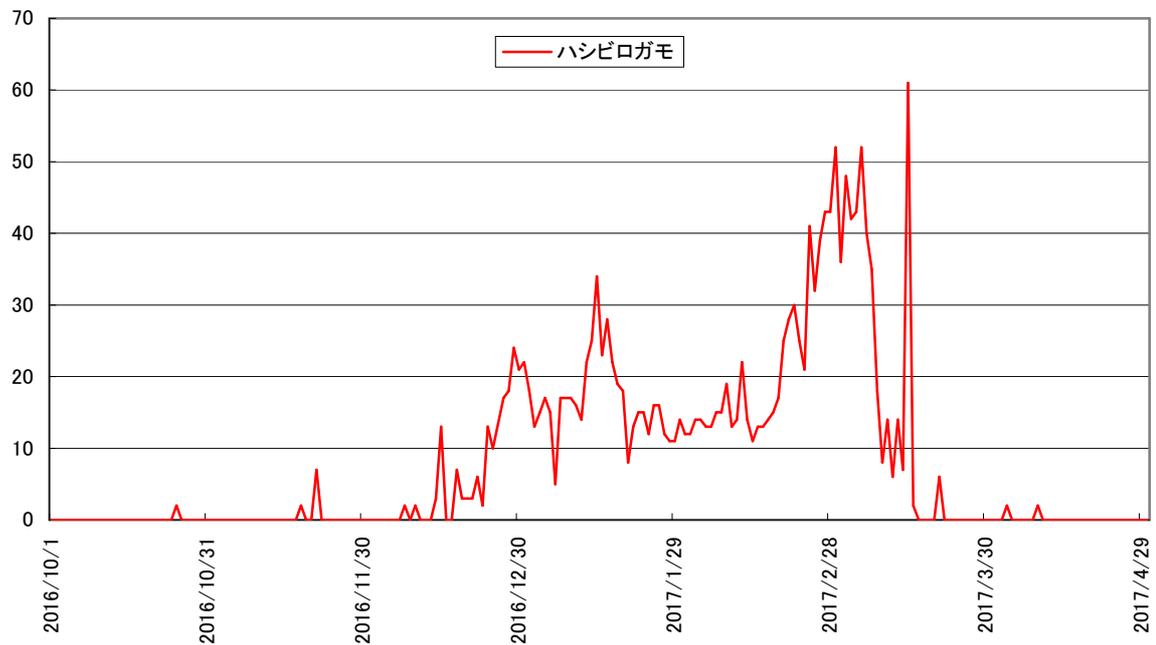
5. カモ類と気温

北池から最寄りのアメダス明石地点の日平均気温とカモ類の見られた時期を図に表します。図より、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモなどのカモ類は、10月と11月の少数の先駆けを除いて、日平均気温が10度以下になる頃にやってきて、10度を超える頃に去っていくようです。



6. ハシビロガモの数の変化

最も数が多かったハシビロガモについて、数の変化をグラフに表しました。



12月から3月にかけて、数が多くなっているが、日による変化が激しい。北池周辺にはため池がたくさんあり、野鳥はその間を移動していると思われます。北池の堤防には歩道が整備されており、日中は人通りがあります。北側は車道にも面しています。ヨシ林は10月末に刈り取られてしまい、隠れる場所がほとんどないので、野鳥にとって安全に滞在できる場所ではないかもしれません。北池には水草があり小魚もいるので、野鳥にとっては餌場となっています。

7. 北海道のカモ

2017年5月30日、風連湖と野付半島へ行く機会があり、風連湖そばの「道の駅スワン44ねむろ」に立ち寄りました。



道の駅スワン44ねむろから見る風連湖と春国岱 (2017.5.30)

道の駅の屋外に「遊歩道周辺で見られる野鳥」が表示されています。風連湖や春国岱周辺でヒドロガモやマガモが見られるのは3～5月。その後、繁殖地であるシベリヤへ渡り、9月頃日本に戻ってくるようです。

遊歩道周辺で見られる野鳥													
種名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
アオサギ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オオハクチョウ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヒドリガモ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オナガガモ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ホオジロガモ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
マガモ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オジロワシ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オオワシ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
タンチョウ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オオソリハシギ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
キョウジョシキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ハマシギ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
キアシシギ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ホウロクシギ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
チュウシャクシギ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
シロカエメ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コヨシキリ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アリスイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クマゲラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アカゲラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
キビタキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ミソサザイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ルリビタキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クイタダキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エナガ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ハシブトガラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヒガラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ゴジュウカラ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オオジュリン		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ベニマシコ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カケス		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

野付半島では、3種類のカモを見ることができました。

- ヒドリガモ
- ヨシガモ
- オナガガモ



ヒドリガモ (2017.5.30)



ヨシガモ (2017.5.30)



オナガガモ (2017.5.30)

8. 北池の環境保護について

北池の堤防はコンクリートで固められており、人工的な環境ではあるが、トンボなどの昆虫をはじめ、水中には小魚や体長 60 cm を越えるほどのコイも多くいるし、年間を通して多くの野鳥が見られる。野鳥の中には、カモ類などシベリヤからの渡り鳥も見られる。

宅地化が進むなど、地域の自然環境が少なくなっているなかで、北池を含めこの地域のため池は、残された貴重な生命の営みの場所といえよう。

北池の環境を守るために、重要と思われることは、

- 住民の意識の高まりへの期待： ゴミを捨てないことに始まり、水質を悪化させないように。
- 外来生物を持ち込まない： 誰も魚や亀などの外来生物を北池に放してはいけない。カミツキガメやアリゲーターガーなどの危険生物はもちろん、ヒゴイや金魚などを含め、一切の外来生物を放してはいけないことを、周知徹底する必要がある。
- 駆除すべき外来生物の特定と対策： 北池にはミドリガメ（アカミミガメ）が大量に繁殖している。すでに明石市や稲美町では駆除作業がおこなわれている。北池でも対策が必要と思われる。
- 水生植物： 水中で光合成が行われることにより、水質改善が期待される。また、水中昆虫などの住処にもなる。農業用水としての利用に妨げとならないよう注意しながら、水生植物を増やすための施策が望まれる。

かがやきの北池コミュニティの活動は、北池を守るために大きな貢献をしていると思います。今後も継続して活動されるよう願うものです。

思い起こせば、50 年ほど前、北池の水は飲めるほどきれいであったし、夏には蛍が多く飛び、ヒシや蓮などの水草もあった。現在の北池の環境を守り、可能であれば再び蛍が見られる日がくることを期待したい。

9. おわりに

2016年8月に観察を始めた時には、鳥の名前もほとんどわからない状態でしたが、毎日観察を続けることで、すこしずつ識別ができるようになりました。水辺の鳥17種類を記録しました。冬にはユーラシア大陸からのカモ類が見られ、北池を通して遠くシベリアまで思いをはせることができました。今後も観察を続けたいと思います。

播州平野にはたくさんのため池があり、北池とおなじように野鳥が生息しているものと思われます。北池だけでは野鳥の数は少ないですが、播州平野のすべてのため池では、野鳥の数はかなりのものと思われます。ラムサール条約登録湿地とならないまでも、ため池の自然環境を護ってゆくことが大切だと思われます。北池周辺の4自治会（北池・二子北・播磨苑・新野添）と二子水利組合により「かがやきの北池コミュニティ」が結成されており（平成15年）、自然と地域社会との調和を図ることを目的に活動しており、定期的にクリーンキャンペーンなどが行われています。

大阪城カモ調査によれば、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オシドリ、マガモ、カルガモ、小ガモ、ヨシガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、バン、オオバン、カワウなどが記録されたとあります。

(http://www.bird-research.jp/1_katsudo/osaka_chosa/osaka-jo.html)

このうち、ホシハジロ、オシドリ、オナガガモなどは、北池では見られませんでした。今後見られるかもしれません。

北池には、アカミミガメと思われる亀がたくさん生息しています。明石市では駆除の体制をとっておられるように聞いています。また、稲美町の天満大池では、カメを捕まえるためのトラップが設置されているそうです。北池のアカミミガメを駆除すべきかどうかについての議論は、これまでなされていないかもしれません。有志、自治会、播磨町など、各レベルにおいて、近く議論が進められるようお願いものです。

野鳥の識別は、日本野鳥の会発行の、野鳥観察ハンディ図鑑「新・水辺の鳥 改訂版」を参考にしました。

播磨町より、ため池の水質分析データを提供していただきました。感謝いたします。

675-0162 兵庫県加古郡播磨町二子 130

衣笠 誠一郎

kinugasa-m@s8.dion.ne.jp

ブログ：北池と <http://kitaike.sblo.jp/>

追記 2017.8.14

4.12 2017年7月および8月北池の環境保護について、を追加